

飼料用米に取り組もう!

水田農業をめぐる動向

米価は一定回復したものの、まだまだ改善の余地は大きい

在庫量と価格には相関関係が見られ、在庫量が少なければ価格が高く、在庫量が多くなるほど価格は低くなる傾向にあります。



27年産米の価格は22年産水準にとどまっています。

28年産米の取り組み次第では、過剰在庫が解消されず、再び米価が下落する恐れがあります。

さらに、主食用米の需要は減少傾向



だから、需要に応じた生産が必要

品目	需要動向
麦・大豆	需要は堅調だが、産地によって生産拡大に向けた技術的課題あり。
加工用米	近年の生産量の拡大により、過剰傾向で推移。
備蓄米	買入枠が減少 (27年産 25万ト → 28年産 22.5万ト → 29年産 20万ト)。
米粉用米	過剰在庫は一定解消されたが、需要は依然として伸び悩み。
飼料用米	最も大きな需要が存在。

飼料用米に取り組むメリット

- ① 所得確保と経営安定が実現!**
 → 作付段階で収入が見通せるため、**経営安定**につながります。(収入試算は別掲)
- ② 主食用米の需給改善!**
 → 飼料用米の取り組みを通じて、**主食用米の需要に応じた生産**を実現できます。
- ③ 水田をフル活用!**
 → **多面的機能の発揮**、**耕作放棄地の解消**、**食料自給率の向上**といった効果も生まれます。

耕そう、大地と地域の未来。

JAグループ



飼料用米に取り組むには

STEP1 種子

・多収性専用品種を確保していますので、JAまでご注文ください。

STEP2 作付

・数量払いの対象にするため、圃場を特定して取り組みましょう。

STEP3 申請

・5月末までに営農計画書と売買契約書をJAにご提出ください。

STEP4 栽培

・所得の確保を目指して低コスト生産に取り組みましょう。

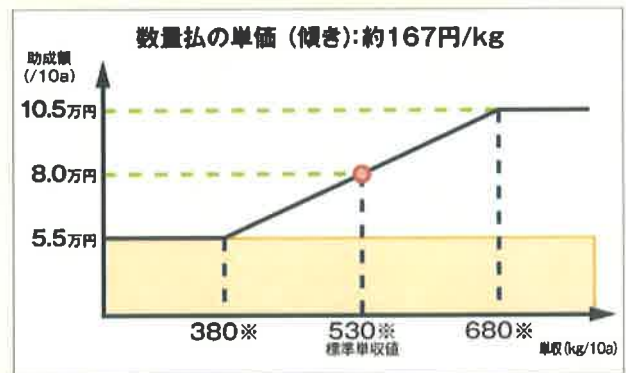
STEP5 出荷

・JAグループが責任を持って買取ります。

飼料用米への政策支援

- 28年度概算決定
水田フル活用の直接支払交付金 **3,078億円**
- 数量払の導入で **最大 10.5万円/10a!**
標準単収(*)でも **8万円/10a!**
- 二毛作助成 **1万5千円/10a**
- 耕畜連携助成 **1万3千円/10a**
- 産地交付金(多収品種) **1万2千円/10a**

- 数量払いによる助成については、農産物検査機関による数量の確認を受けていることが条件。
- *は全国平均の平年単収(標準単収値)に基づく数値であり、各地域への適用に当たっては、市町村等が当該地域に応じて定めている単収(配分単収)を適用。



取り組みにあたっての留意点

- 作り慣れた主食用品種でも飼料用米として作付できます。
- あらかじめ計画した契約数量を出荷する「一括管理方式」でも数量払の対象となります。
*地域の作況を用いて出荷数量を変更することが可能です。
- 主食用品種で取り組む場合でも、「区分管理方式」を選択できます。
*その場合は、主食用米の生産と差異を設け(多収に向けた生産資材の活用や省力化栽培の実施など)、圃場を特定する必要があります。その上で「区分管理計画書」を作成していただくことになります。
- 多収性専用品種で取り組む際は、圃場の団地化や受入体制の整備などが必要のため、JA等とよく相談して下さい。
- 水田活用の直接支払交付金の交付時期は、数量確定後～3月頃(予定)です。

飼料用米の収入試算(10aあたりの収入イメージ)

品目	収量	品代	交付金	収入合計	特徴
主食用米	530kg	70,700円 ~88,300円	7,500円	78,200円 ~95,800円	需給動向により品代・収入が変動
飼料用米	551kg	※	96,500円	96,500+α円	交付金により収入が安定!
	680kg	※	130,000円	130,000+α円	

注1. 上記比較表では主食用米については全国平均収量にもとづく数値である530kg/10a、飼料用米については26年産平均収量551kg/10a、上記の場合の数量払いの上限680kg/10aにより試算しています。

注2. 主食用米の品代は需給動向によって変動するため、8,000~10,000円/60kgの幅で試算しています。

注3. 交付金は、主食用米については米の直接支払交付金(7,500円/10a)、飼料用米については水田活用の直接支払交付金のうち戦略作物助成(数量払い)、耕畜連携助成(13,000円/10a)、多収品種への産地交付金(12,000円/10a、収量680kg/パターンのみに加算)を対象に試算しています。

注4. 飼料用米については、このほか、産地交付金(県・市町村段階)等が上乘せされる場合があります。

注5. 飼料用米の品代については、販売価格から流通経費等を差し引き、単価はα円/kgで試算しています。

飼料用米の疑問にお答えします

Q

30年産以降は生産調整がなくなるのだから、これからは何でも自由に作ってもいいのでは？

30年産以降、行政による生産数量目標の配分が行われなくなる方向です。しかしながら、米の需給と価格の安定を図るため、これまでと同様、主食用米の需要に応じた生産(生産調整)や麦・大豆・飼料用米等による水田フル活用に取り組む必要があります。

A

Q

周りに畜産農家は少ないけれど、本当に販売先を確保できるのかなあ。

JA系統飼料会社(くみあい飼料)をはじめとして十分な需要を確保しています。詳しくは裏面をご覧ください。また、生産された飼料用米はJA全農が買い取りますので、早期に収入を確定できます。

A

Q

飼料用米への政策支援がいつまで続くか不安だなあ...

平成27年4月に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」において、平成37年産の飼料用米の生産努力目標が110万トンに定められ、この目標の確実な達成に向けて、必要な支援を行うことが明記されています。

A

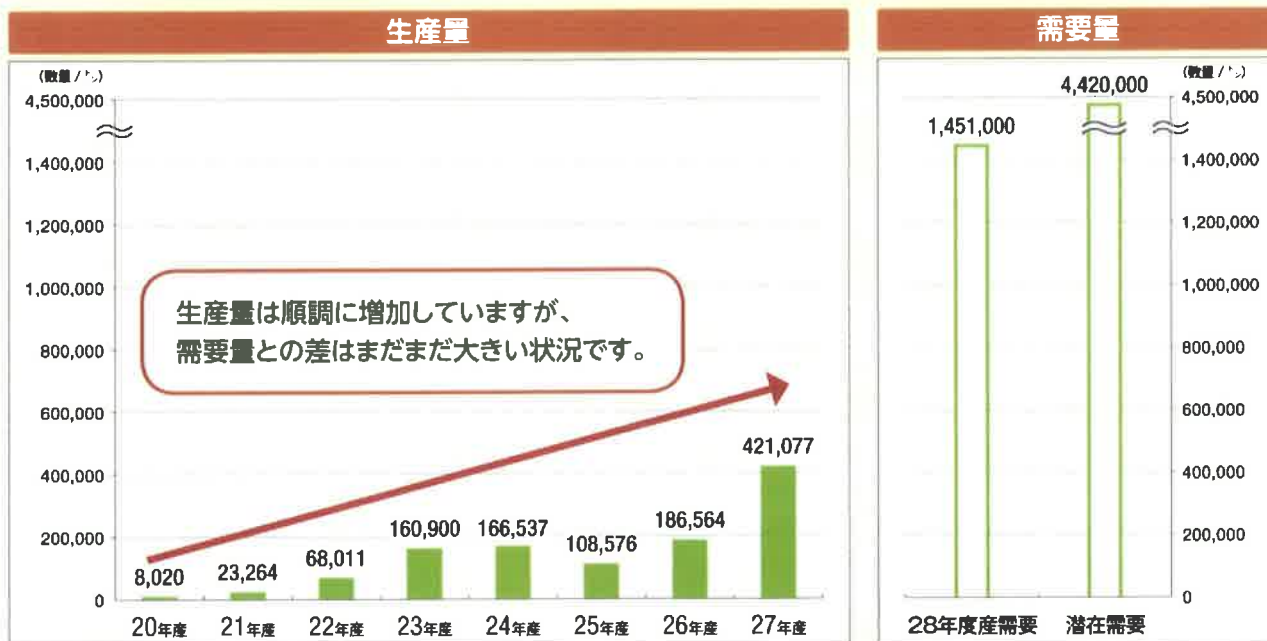
Q

飼料用米に取り組むと資金繰りが大変になってしまうなあ。

農家の皆様の資金需要に応えるため、交付金支払いまでのつなぎ資金として、JAバンクでは飼料用米に対応したJA飼料用米対応資金をご用意しており、JAバンクの利子補給もありますのでご活用ください。

A

飼料用米の生産量と需要量



注1. 農林水産省「米に関するマンスリーレポート」等をもとに作成しています。注2. 需要量は、一部に政府備蓄米、MA米を含めた数量です。

関係者のみなさまの声

飼料用米のメリットは所得確保。我が家も飼料用米に移行する時、父親との攻防があったが、経営安定につながり今では理解が深まっている。

飼料用米の増産に向けて、10～20年スパンで先を見通せる「持続性」、畜産サイドと耕種サイドの「需要と供給のバランス」、トウモロコシ代替として十分な「飼料価値」の3点が必要。将来ある若い人達が米づくりを続けられるように、飼料用米の良さをどう伝えるか考えていきたい。



生産者

栃木県農協青年部連盟 副理事長
横尾 光広 様

飼料会社として飼料米を使用することが、米農家・畜産農家の皆様の負託に応えることだと体制を整備してまいりました。鹿島工場では専用ラインを新設し受入・使用能力を増強しており、14万トまで可能となりました。JAグループ飼料工場全体で80万ト超の飼料用米を使用できる体制となっています。関係者の意識も変わっており、6～7年前まで「米を飼料に使うとはけしからん」と怒られたことがウソのようです。

これからも飼料用米事業を継続発展させていくため、物流・保管体制の更なる合理化に向けて、関連機関・関連会社と連携強化し、なお一層努力してまいります。



飼料会社

JA東日本くみあい飼料株式会社 常務取締役
白石 光広 様

コープネットグループの生協の宅配・店舗において2009年から取り扱いを開始した「お米育ち豚」は、産地との連携・交流の中で育んだ“おいしさ”と“安全・安心”が消費者・生協組合員の高い評価を受け、売上は年々伸びています。加えて「お米育ち」の商品取り扱い扱いは、卵、鶏肉、牛肉に広がっています。

食卓での営みを通じて生産と消費をつなぎ、食料自給力の向上と環境保全に貢献する、こうした力強い関係を今後も広げてまいりたいと存じます。



実需者

生活協同組合連合会コープネット事業連合 常務理事
藤田 親継 様